

IBM WebSphere Business Events

ハイライト

- 刻々と変わるビジネス状況において、LoBユーザーの洞察力と認識能力を向上
- ビジネス・ユーザーによるビジネス・イベントの定義と事前対応を支援
- ビジネス・ユーザーによるコーディング無しでの実装を可能にすることにより、IT 開発や実装コストの発生を防ぎ、総所有コスト (TCO) を削減
- 人、イベント、情報間に存在する単純および複雑な関係の検知、判断、およびそれらへの動的な対応を提供
- 顧客、サプライヤー、市場ニーズの変化への即応性を高めることにより、ビジネスの俊敏性を強化
- イベント・パターンの検知、従来型ワークフロー、およびアクティビティ・モニタリング機能を組み合わせた複合的なアプリケーションの必要性をなくすことにより TCO を削減
- 既存のビジネス・プロセス・マネージメント (BPM) およびサービス指向アーキテクチャー (SOA) インフラストラクチャーを強化
- 高可用性、大規模なビジネス・コンテキストをサポートするメモリー内キャッシュ機能、社内で膨大なデータを扱う企業向けの WebSphere Business Events eXtreme Scale の拡張オプションといった、エンタープライズ・ユーザー向けのサービス品質を提供

イベントの検知、分析、およびイベントへの対応

すべてのビジネスは、相互に結び付き、相互に関連した複雑なビジネス環境の中で運営されています。金利の変動、天候の変化、さらには一見単純なカスタマー・トランザクションなど、すべての要因によって、企業のビジネスが左右される場合があります。このようなパターンは簡単に見つけられることもありますが、多くの場合、その検知と関連付けは困難です。

ビジネス・イベント処理 (BEP) ソフトウェアを使用すると、お客様は単純、複雑を問わず、あらゆるビジネス・イベントの検知および分析、新たなオポチュニティーの活用、予期せぬ事態への対応、リスクの緩和、リソースの振り分けを実行できます。BEP は SOA、インフォメーション・オンデマンド (IOD)、サービス・マネージメントといった数多くの既存の施策を結び付けます。例えば、BEP ソフトウェアをビジネス・プロセス・マネージメント (BPM) ソリューションに組み込むと、タイムリーにイベント・パターンを検知することによって、動的なプロセス実行との強力な連携を提供します。

WebSphere Business Events

IBM WebSphere® Business Events は、BEP をサポートすることに特化した IBM ソフトウェア・プロダクトであり、多様な業界やアプリケーション分野で必要とされる膨大な量の要求と処理要件を満たします。この製品によってイベント処理がビジネス・ユーザーの手になされるようになります。ビジネス・ユーザーは、ビジネス・イベントの定義、設計、さらには手順の追加や変更を IT 部門への依頼やコーディング/再コーディングの必要なしに実行

できます。すべての作業は、直感的に使えるグラフィカルなユーザー・インターフェースによって、ビジネス・イベントを確認しながら作成できるため、ビジネス・ユーザーはビジネスの進行に従ってアクティビティを可視化できます (図 1 を参照)。

IBM WebSphere Business Events は、同じ種類のイベントから異種混合のイベント、あるいは短期間のイベントから長期間のイベントに至るまで、幅広い範囲のビジネス・イベントに対応できます。また、優れた高度なイベントの処理能力を備えているため、多種のソースからあらゆる順序で生じるイベントのパターンを検知し、複数の多様なリアクションを作成することができます。このようにして、企業がどう考え、行動するのかを従来よりも的確に表すことができます。

IBM WebSphere Business Events で対応可能な処理要件

アプリケーションが以下のいずれかをサポートする必要がある場合は、WebSphere Business Events の使用をご検討ください。

- 散在するソースから多様なタイミングで発生するイベント・パターンの検知
- 予測不能なイベント発生順序やタイミング
- 動的に応答処理および例外処理を解決動的に応答処理および例外処理を解決
- 頻繁に変更される処理ルール
- ビジネス・アナリストによる処理ルールの生成と保守

IBM WebSphere Business Events は、次のようなビジネス目標の達成を支援します。

- ビジネス上、変化に対する評価や対応に最も高い効果を出すことが可能な分野へのビジネス洞察や対処法を提供
 - 迅速な意思決定と対応、変化への変更にかかる時間の改善をベースとした新しい市場機会への対応を拡大
 - ビジネス・ユーザーが IT 部門の関与に頼ることなく、増え続けるビジネス・イベントの管理タスクを実行できるようにする
 - ビジネス・ユーザーがビジネス・イベント環境に対する適切な洞察を得られるようにし、過剰な IT 開発コストを発生させない
- 組織のニーズに基づいて変更を行うための経済的な手段を確保する
 - システムをビジネスの即応性の改善に利用して、ビジネス・イベント管理および運用コストを削減する
 - ビジネス・イベントの複雑なパターンの可視性を高めることにより、特に部門や組織の境界を超えた運用コストの削減を促進する
 - ブランドの評判やその品質に対するリスクを軽減し、保護することによって、顧客の定着に貢献する
 - シンプルなプラグ・アンド・プレイの実装アプローチによって、既存のビジネス・システムへの介入を最低限に抑える
 - ビジネス・ユーザーが、ITの作業をほとんど行わずに、ビジネスのコンセプトを応用し、複雑なビジネス状況を設計、定義することにより、ビジネス・プロジェクトの評価基準、進捗、実装コストを改善

IBM WebSphere Business Events により、お客様は自社のアプリケーション環境に BEP を導入し、組み込んでいくことができます。ビジネスに関連して発生するイベントを部門やアプリケーションの枠を超えて関連付けできるこの製品の能力により、お客様は個別に発生するビジネス・イベント情報とこれらのビジネス・イベントに関連する人およびプロセスを関連付けることができます。これにより、各事業分野を担当するアナリストと IT 開発の担当者との間にしばしば存在する溝を埋めることができます。ビジネス・イベントの振る舞いについてのパターンを定義しておく、IBM WebSphere Business Events はイベントが発生した時点で社内との関係各部に適切な指示を出します。これにより、お客様企業では状況に沿った対応や適応を実践できます。

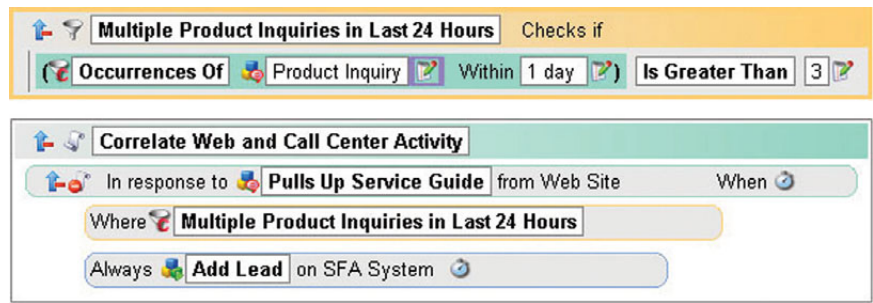


図 1. ユーザーが使用する WebSphere Business Events の条件と相互関係を表現する UI

IBM WebSphere Business Events はこのビジネスに照準を当てた機能を、以下の 4 つの基本要素によって提供します。

- ビジネス・イベント情報のソースを関連付けるためのツール
- ビジネス・イベントを定義および関連付けるためのツール
- WebSphere Business Events 実行環境
- ビジネスに対する洞察の提供

ビジネス・イベント情報のソースを

関連付けるためのツール

ビジネス・イベント情報は組織内の複数の場所で発生し、複数の場所に保存されます。ビジネス・イベント情報を関連付け、検知し、素早く引き出すのは BEP の重要な能力の 1 つです。IT 開発者は、WebSphere Business Events に付属する各種のツールによって、個別のビジネス・イベント情報の集まりを定義し、繋ぎ合わせるすることができます。また、ビジネス・ユーザーが定義するパターンやシナリオで必要となるビジネス・イベント情報や定義情報を BPM 環境や SOA 環境にある他のテクノロジーに対して送ることができます。

ビジネス・イベントを定義および関連付けるためのツール

IT 開発者が必要な関連付けを有効にすると、各事業分野のアナリストは組織、運用、ビジネス・プロセスに関する知識を使って、自社に合ったビジネス・イベントの定義および管理方法を策定できます。また、ビジネス・アナリストは関係、パターン、相関、アクションの定義を作成できます。このようなビジネス・イベントや BEP の定義を記述・管理するのが、WebSphere Business Events に付属する使いやすいグラフィカルなツールです。

ビジネス・ユーザーはこれらのビジネス・イベントや BEP の定義を強化・拡張することにより、さらに複雑なビジネス・シチュエーションやシナリオをサポートできます。これらのツールを使うことによりビジネス・ユーザーは業界用語、経験則、ビジネス・ロジック、ビジネス・イベントの相関および関係といったビジネス上の概念を適用できます。つまり、このような付属ツールの使い方を学ぶことにより、ビジネス・ユーザーは、プログラミング言語を知らなくても、このような設計作業や定義作業を実行できるのです。

WebSphere Business Events 実行環境

最初のビジネス・イベントの定義と実装が完了すると、IBM WebSphere Business Events 実行環境は、ビジネス・イベント情報の収集とフィルター処理を開始し、IT 開発者が実装した接続先からのイベントを受け取ります。そして、受信した大量なビジネス・イベント情報をソートして、検知した関連情報との関連付けを行います。次に、受け取ったビジネス・イベント情報が、ビジネス・ユーザーが記述・格納しておいた定義済みのパターンや相関とマッチするかどうかを調べます。保持されたビジネス・イベント情報から、短期間でのアクティビティの急増、複数のビジネス・イベントの組み合わせ、発生した処理期間の長さや時系列の相関などを知ることができます。定義されている重要なビジネス・イベントやパターンを検知すると、実行環境はビジネス・アクションを開始します。このアクションは、重要なビジネス・イベントが発生したことを電子的な手段を使って、ビジネス・ユーザーに通知したり、自動化されたビジネス・プロセスの要求に応えたり、ビジネス・プロセスを始動したりと多岐にわたります。

ビジネスに対する洞察の提供

WebSphere Business Events は、ビジネスに対する洞察力を提供し、数々のアプローチでビジネスの深い理解を促進することができます。LoB ユーザーは、ビジネス・ユーザー向けの直感的なツールを使って、タイミングよくビジネスに対する洞察を受け取る方法を定義できます。ビジネス・ユーザーは、発生中のビジネス・イベントを個別または全体をまとめた形として視覚化して、適切な対応を取ることができます。さらに、所属する組織の独自のニーズに合わせて定義した情報や拡張した図表をインタラクティブに操作することもできます。このようなビジネス・イベント情報、特に関連性の高い、貴重な情報を適切なタイミングで提供できる能力は、組織の努力と意思決定によって最大限のビジネス価値を引き出すのに不可欠です。

IBM WebSphere Business Events バージョン 6.2 の新機能

WebSphere Business Events バージョン 6.2 は、以下のような多くの新しい特長や機能によって強化されています。

- エンタープライズ・ユーザー向けにサービス品質を拡張しました。
 - 高可用性実現のためのクラスタリングのサポートによって単一障害点がなくなり、LoB ユーザーは安心してタイムリーで洞察に優れた意思決定を下すことができます。
 - メモリー内キャッシュのサポートにより、ビジネス・コンテキストを効率的に長期間保持すると同時に、複雑な相関関係の処理を加速して、ビジネスの即応性を高めることもできます。
- IBM Business Process Management (BPM) とコネクティビティー製品を統合して、ビジネス価値を提供します。
 - IBM WebSphere Message Broker および IBM WebSphere Enterprise Service Bus (ESB) との直接的な双方向イベント交換のサポートにより、既存の ESB に流れる情報を容易に利用できます。
 - IBM WebSphere Business Monitor との直接的な双方向イベント交換のサポートにより、モニターしているビジネス・アクティビティーを基にしたアクションを自動的に実行する機能を提供して、ビジネス・パフォーマンスの向上を促進します。

- IBM WebSphere Business Services Fabric および IBM WebSphere Dynamic Process Edition 内でのポリシー更新の自動化を可能にして、LoB ユーザーが、IT 部門の関与なしにビジネス・ポリシーを手作業で更新および制御することができます。
- WebSphere 製品群の共有の成果物を取得するため、IBM WebSphere Service Registry and Repository の使用法が拡張されました。

- グローバルなビジネス展開ができるように製品の機能を拡張して、ビジネス・ユーザーが中国語 (簡体字および繁体字)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語 (ブラジル)、スペイン語、ロシア語を利用できる環境を整えて、英語を母国語としないビジネス・ユーザーが母国語でソフトウェアと対話できるようにしました。
- イベント間での自動的なデータ共有機能をより幅広く使用できるようにして、個々のビジネス・イベントを複数の目的や相互作用で使用できるようにしました。
- 対応するプラットフォームの範囲を Linux[®] on System z[®]、Linux on System p[®]、Solaris 10、Microsoft[®] Windows[®] 2008 に広げることにより、ビジネス・イベント処理をメインフレーム・ユーザーなどが利用できるようにしました。

WebSphere Business Events eXtreme Scale バージョン 6.2

WebSphere Business Events eXtreme Scale バージョン 6.2 は WebSphere Business Events と WebSphere eXtreme Scale を組み合わせたオファリング、膨大な量のビジネス・イベントが社内を流れるお客様企業でイベント処理機能を活用することを可能にします。

- 大量のイベントを処理するお客様向けの *WebSphere eXtreme Scale* の機能を生かして、複数のサーバー間でイベントを最適に分散させ、データをイベント処理の近くに配信して高速アクセスを可能にします。
- 単純なプロセス内トポロジーから、数千台のコモディティー・サーバーに分散したテラバイト級のデータをサポートする強力な分散型トポロジーに至る、幅広い規模でビジネス・コンテキストをサポートする堅固なメモリー内キャッシュを提供します。

- ビジネス・イベント処理でパターンを検知するために、膨大な量の生のイベントを事前にフィルター処理するプログラミング・インターフェースを提供します。

詳細情報

IBM WebSphere Business Events のシステム要件については、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/software/integration/wbe/requirements/

IBM WebSphere Business Events eXtreme Scale のシステム要件については、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/software/integration/wbexs/requirements/

IBM WebSphere Business Events の詳細については、IBM 担当者または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/jp/software/websphere/bpm/wbe/

IBM WebSphere Business Events eXtreme Scale の詳細については、IBM 担当者または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/software/integration/wbexs



© Copyright IBM Corporation 2008

日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェア事業
〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12

Produced in Japan
November 2008
All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書に記載の製品、およびサービスが必ずしもその他の国においても提供されるとは限りません。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。



Recyclable, please recycle.

WSD14020-JPJA-01